

ムライティブ県コミュニティ再建及び帰還漁民の生計向上事業

特定非営利活動法人パルシック

1. 崩壊した教会

ムライティブ県は 2004 年の津波による被災から復興する間もなく、2006 年以降の内戦による破壊にさらされ、各地には今もその傷跡が残る。



2. 遅れた帰還

マリタイムパトゥ郡の住民の帰還はムライティブ県のなかでも遅く、2011 年、2012 年になって帰還した住民も多く、支援が限られていて自分たちで、ビニールシートなどでつくったとりあえずの仮設住宅に住む住民も多い。



3. 木の下での会議

漁協や女性団体が使える建築物がなく、木の下で集まりをもっており、コミュニティーセンターの必要が訴えられた。



4. にわかづくりの集会所

別の地域では住民が自分たちで木材などで集会所をつくったが、雨が降ると使えない。



手作りのこしらえた小屋が漁協などの
会合場所となっている

5. 「獲る漁業」から「育てる漁業」への発展の必要性

内戦終結に伴い帰還民に加えて、移住漁民も増え、限られた漁具・漁船で沿岸漁業を行っているので早晩、資源の枯渇が心配される。

